

会 議 記 録		記録者	担当チーム
会 議 名	関宮地域タウンミーティング		
期 日	令和5年7月5日（水） 午後7時30分～午後9時18分		
場 所	旧関宮地域局2階 大会議室		
出席者	校区民	出席30人（うち女性2人）、オンライン参加1人	
	市幹部	広瀬市長、山下副市長、坂本危機管理監、井上市民生活部長、世登健康福祉部長、柳川まち整備部長、雲田教育部長	
	特区政策課	安達課長、圓山、雲田	
	担当チーム（市）	安達洋、中村、中野、小谷	
<p><b>1 開会</b></p> <p><b>2 関宮まちづくり協議会 井上会長あいさつ</b>  この春からまち協の会長を務めています。慣れないですが勉強しながら頑張っていきたい。本日は、これからの養父市を語るタウンミーティングに多数の参加ありがとうございます。養父市の少子高齢化が進む中、今の養父市をどのようにすれば活性化につながるか、忌憚のないご意見をお願いしたい。</p> <p><b>3 市長あいさつ</b>  今年度のタウンミーティングは6月20日から実施し、5地区目。いま田植えが終わって1か月で、田んぼが緑、山も新緑から緑が濃くなって綺麗な景観を醸し出している。私自身、生まれ育った養父市を愛している。この養父市をずっと素晴らしい街で残していきたい、強い思いに駆られながらその方向に向かって市政運営をしている。  みなさんのご意見を反映させたいということでタウンミーティングを開催している。今年度、実施方法を少し変えた。昨年は18自治協全部を回っていた。結構調整が大変ですし、参加者は男性、地域に主体で活躍している方が中心となる。どの自治協も同じ傾向。もう少し幅広くいろんな世代、男女問わずいろんな職業の方から意見をいただくことも必要と考え、自治協での回数を半分の9つにし、隔年で行う。その代わりに、少人数のグループの方々にカフェという形で行うタウンミーティングを増やしていきたい。養父市には160ほど集落があるが、日程の調整のつく範囲内で、区民の皆様にお集まりいただき、市長の出前講座という形で伺うこともしたい。ある地区で実施し、子供からも参加してもらった有意義なミーティングだった。  梅雨でいまのところ大きな雨はなく被害は出ていないが、九州など線状降水帯で大きな被害が起きた。養父市、但馬でも起きないとも限らない。安心安全が第一のまちづくりをしていきたい。6月は土砂災害防止月間、豊かな村を災害から守る月間で、事前防災、早め早めの対応をしていきたいと考えている。</p> <p><b>4 重点施策、経営方針の説明</b></p>			

## 5 意見・提案等 (20:27~)

(男性1) 先ほど話があった事前防災、これについては心強い言葉をいただいた。その中で、災害対応についてお願いします。H29の台風18号だったか、H30西日本豪雨で甚大な被害があった。その中の対応が経過観察の場所があった。被害を想定した災害が起こらないためにも、現地調査、地元からの聞き取り調査を行っていただきたい。日畑のほうで、倒木で被害があったと聞いた。その時に応じた自然災害があると思う。迅速に対応してほしい。台風シーズンに入る。地元民としては、今まで災害にあった場所、災害が想定される場所の現地調査、実態調査についてよろしくお願ひしたい。

(市長) 過去豪雨で被災して、災害復旧を適用するところに対応したが、災害復旧できないが経過観察しないといけないところも多々あると思う。その後の状況を見ながら、大きな災害が起きそうであれば対応していきたい。もう一度、そのあたりの現地のチェックも必要と思う。担当部長も来ておるので、していきたい。皆様から場所の聞き取りや、立ち合いを求めることもあるかもしれない。

(柳川) 経過観察の場所の確認と聞き取りは重要なことと思っている。県と合同で6月に河川の合同点検で危険な箇所や、樋門の確認をした。日頃、地域の方から要望書をたくさんいただいている。危険箇所を県と情報共有しながらチェックをしているつもりだが、十分でない。現地のチェックは重要と考える。地域の方と話し合いの場を持てるようにしていきたい。

(市長) どのような場所をイメージされているか。

(男性1) 護岸。県との絡みがあると思うが、市を通して県に働きかけてもらいたい。災害復旧は順番などもあって難しいと思うが、要望の回答で復旧予定とあったものの、それ以降ができていない。護岸は傷口が大きくなっていく。田畑、ビニールハウスがあり、民家がある。災害があつてからでは遅いので、未然にリスクを考えながら。地元民がよく知っているので、役所の方との聞き取り、話し合いが一番大事だと思う。よろしくお願ひしたい。

(市長) 河川の話。公共事業費が国全体の中で少なくなっているのも事実。社会保障費が予算に占める割合が増え、公共事業が少なくなったのは事実。H18ごろがピークで国全体12兆円くらいあったが、今は6兆円くらいに半減した。河川費が少ない。円山川上流の朝来市側で重点的に事業をしている。河川費の増額をわれわれも要望している。国会議員、県議員を通して働きかけているが、地域の声として公共事業予算を増やしてほしいという声を上げていただくこともお願ひしたい。

(男性1) 土砂災害が非常に怖くなっている。新聞報道で大きな被害が報じられるのは、堤防の決壊と山の土砂災害。

(柳川) 地域要望で多いのは、護岸と、土砂災害のための急傾斜、砂防など。県に繋いでいるが、その後のケアが十分でないところもあるので、経過観察、そのあたりの調査をするよう県に働きかけ、地域にお返ししたい。

(市長) 河川氾濫が全国で起きている。雨の降り方が今までと違う。伊勢湾台風級の雨でも耐えられるような護岸をしてきたが、それを上回る雨が降る。氾濫が起きれば、その地域に予算がほとんどいってしまう。予算の総額を増やすことを国に働きがけたい。

(Zoom参加者の意見) 自然災害の対応の前に事前防災が必要。山に人が入らないから被害が起きる。市は自伐型林業を進めている。山の整備に予算を投じてほしい。雇用にもつながる。

(市長) 自伐型林業に興味をもっている人がいる。国が森林環境譲与税制度をつくり、森林整備にあてている。養父市でも7千万円ほどあり有効に使っている。予算を予防に使う

ほうが効果がでる。予防保全にしっかり対応を進めていきたい。

(男性2) ■■■■■ です。空き家の件で相談したい。若い人が都会に大勢出ていて、親がなくなったら空き家になってしまう。その空き家を若い人が帰ってきて中を片付けて、あとは市に委託(注:空き家バンクに登録する)してしまうと、そういうことが関宮で多い。いろんな施設を作っても、年がいった人は亡くなるし、利用する人は少なくなる。自分はお寺の世話をしているが、まず空き家を市に委託したら、次は墓じまい、お寺から離檀してしまうことが起きてきている。連絡だけで離檀されてしまう。なんとか、空き家が少なくなるように、若い者が養父市に定住するよう、それなりの仕事がないと若者は留まらないので考えていただきたい。

(市長) 空き家の問題は大変な問題で、どんどん増えてきている。壊すのではなく使えるものは使うのが一番いい、そのために移住定住を進めて住んでもらう。市で進めているのは、空き家を使っていただく方を探すため空き家バンク制度をしている。登録していただくと市のホームページで公表し、使いたい人とのマッチングをしている。それでも数が伸びていないのが事実。できたら若者が移住して空き家に住んで、出産して子育てしてもらうのが理想的。働きたい仕事は何なのか、そのエリアに住むことで若者の興味を引くようなものを作っていくことが必要と考えている。人口減少を総合的に考えていきたい。そのモデルとして、関宮の小さな拠点で、将来を睨んだまちづくりをしていくよう準備をしている。皆様とも相談をしていきたい。もう一つ大きな問題の、檀家が少ないのは大変な問題。お寺が維持できない。永代供養して終わり、墓はそのまま。お寺は大切と思っている。しっかりと維持しないといけない。

(柳川) 5年ほど前の調査では、2000件近い空き家が市内で確認されている。世帯数の2割が空き家。今年、空き家の計画づくりを見直す年で、空き家調査をするので、今の状況を追ってお知らせできるかと思う。空き家の問題は3つの側面から考える。未然防止、利活用、それができなければ取り壊し。昨年度、6件ほど解体の補助金を使って解体に至ったケースがある。ただし特定空き家といって、本当にひどい状態、ボロボロの状態になり認定されないと補助金が使えないため、生産的ではない。利活用について、去年から地域連携型の制度をスタートさせた。利用された地域はまだないが、自治協や単体の行政区でも使える制度。地域で空き家を活用して地域活性化を考えると、専門家派遣費用の補助や、空き家の持ち主への意向確認など地域ができにくいところを市で支援する。ご興味のある地域、自治協は問い合わせしていただきたい。危険な空き家になる前に壊すことも重要。やむなく取り壊す方には、上限50万円の解体費用の補助支援を今年からスタートさせた。空き家のことならなんでもいいので、お困りごとがあれば気軽に土地利用未来課へお問い合わせいただきたい。

(男性2) お寺の維持もできないようになる。お寺だけでなくほかに飛び火する。施設をたくさん作っていただきありがたいが、それを利用する人が少なくなる。そういうことも考えていただきたい。

(井上) 空き家バンクの話。R4において登録した建物は26件、全体で43件。売る・貸すに抵抗ある人もいる。都市からの移住に興味のある人は多い。空き家バンクの利用登録者は100件を超え、興味を持ってもらい、物件を見るなどした。成立したのは15件。すぐに住める、安価で利便性が高い、駐車場があるなどの条件を探されている。毎年10件を超える成立はあるので、そういう空き家があればご相談いただきたい。

(市長) みなさんの中で、空き家があればバンクへ登録するよう勧めてほしい。使用料はタダ、無償でもいいからと、自分で管理できないならだれかに使ってもらうように。よろしくお願ひしたい。

(男性3) [ ] です。吉井から万久里、八木に繋がる過疎農道、今の市道について。冬場にスキー客のバイパス道路になっており、ローソンあたりから渋滞するときもある。土日の夕方は今でも渋滞する。快適に通って帰ってもらうため、万久里、和多田、尾崎区の連名で、覆いかぶさる樹木だけでなく上のほうまで切っていただき、見晴らしのいい環境を作るよう要望した。ときどき市が来て道にかぶさっている木は切ってもらいが、すぐ伸びて車の上に落ちる例もある。予算のこともあるので今すぐとは言わないが、特に万久里から尾崎、吉井のあたりで樹木がかぶさって危険と思う。市の意見を聞きたい。

(市長) グリーンシーズンでもあの市道を多くの方が使われることは理解している。両側に樹木がよく茂っている。雪があるときは重みで枝が折れたり、走っている車に雪が落ちたりも考えられる。リスクの回避、快適な環境のため、やっていきたいと思っている。切ってもすぐ生えるので、一定の区間だけでも切るか。1年で全部やるのは難しい。所有者の了解を得て両側5mくらい切るとか。一度ご相談させていただければ。

(男性3) 個人の了解は得ている。ずいぶん前だが。

(柳川) 支障木の話はいろんな地域から通行支障があるので切ってほしいという要望がきている。すぐ職員が現場にいき、危険なところは速やかに除却しているところ。予算が必要で、専門業者でないとできないところもある。工夫しながら応急処置、対応しているところ。下吉井から旧県道の支障木を切ってほしいと要望あり、9月に切る予定。適宜、地域からの声があれば速やかに現場確認する。山の上のほうまでは個人の財産であるので、そこまで踏み込むのは難しいと思っている。車や通行人の安全のため、支障木をなるべく速やかにとっていきたいので、情報提供をお願いします。

(市長) 柳川部長、現地に立ち会って、手を入れていったほうがいいのかも。

(柳川) また声掛けします。

(女性1) 勉強不足でわからないので教えてほしい。デジタル技術の活用、今後の少子高齢化が進む中で暮らしよいまちにするのはわかるが、メタバースが去年オープンして、今の登録者数はどれくらいか、メタバースの中で参加者から収集する情報はどんなものがあるのか、収集した情報をもとに地域づくりや課題解決することだと思うが、誰と共有して、どのような活用していこうとしているのか、それを市役所の中だけで共有するのか、市外の業者、有識者、医療関係者などと連携するのか。

(安達一) 利用人数はログイン数累計1万2千人くらい。メタバースの中で観光案内所、観光地を周遊する一円電車、明延鉱山の中の探検など、中で楽しんでいただくようなコンテンツになっている。観光案内所では、市内施設、特産品の紹介をしている。そこに来た人からの情報収集、コミュニケーションまでは活用できていない。来た人がおのの楽しむという形。意見を収集する、まちづくりに役立てるということで、スマホ版バーチャルやぶを今年度作る。これまでハードルが高かったが、スマホで誰でも使えるものを作り、利用してもらい、情報共有、話し合いなどしてもらおう。市内の特産品の情報収集もできるような仕組みづくりをする。それを使っておっしゃったようなことをしていく準備をしている。仕組みづくりには皆さんに参加していただきたい。

(市長) メタバースの中で情報を得る仕組み、活用してもらおう仕組みが重要。メタバースを使ってベンチャーを立ち上げる人がでてきてもいい。われわれは未熟なところがある。みなさんからこういう活用したい、活用させろという意見が出てくるよう、共有したい。延べ1万2千人に仮想の住民票を発行しており、7千5百人の仮想市民がいる。担当には百万人集めろと言っている。神戸に次ぐ都市をメタバースに作ろうと。知恵を貸していただきたい。

(女性1) メタバースにお金をたくさんつけているので、外部の有識者もいいが、若い方、養父市出身でITの業界に進んでいる人はたくさんいると思うので、その人たちが入れる伸びしろを作り、先々活用をする主要なメンバーになる取組みをしてもらおうと、若い人も帰ってくるし、地域に根付くと思う。

(市長) 市役所にはデジタル技術者がいない。市民の中には少ないかも知れないが、都市部に出て帰ってくる人の中にある可能性がある。養父市出身でデジタルを学んだ子供たちが、ここをフィールドとして活用できる場づくりはできると思う。

## 6 閉会

(副市長) 閉会の前に、地域おこし協力隊として7月から就任された方をご紹介したい。小さな拠点に関する住民意見のファシリテーション、地域活性化、コミュニティの醸成をしていただく。

(延岡) 三田市出身です。海外で教育関係のプロジェクトなどいろんな事業をしながら、ここにたどりついた。小さな拠点事業を進めていくが、私のほうが教わることが多い。みなさんの思い、経験を伺いたい。関宮に住んでいるので、気軽にお声掛けいただければ。

(副市長) タウンミーティングで直接声を聴くのは2年に一回。いただいた防災、人口減少、道路等の問題は1年、2年で解決するものではない。しっかり対応していきたい。ご協力をお願いします。